

学校安全アドバイザー活動報告会並びに長野市災害救援活動報告会の開催

令和2年2月15日
日本防災士会富山県支部



令和2年2月15日(土)に富山県教育委員会保健体育課指導主事 真田昭信氏と富山地方気象台 地震津波防災官 藤田 一氏をお迎えし、学校安全アドバイザー活動報告会と長野市災害救援活動報告会を開催致しました。

第一部 令和元年度学校安全アドバイザー活動報告会

学校安全アドバイザー活動は、富山県が実施する学校安全教育推進事業 学校安全アドバイザー派遣事業の一環として平成30年度から実施しています。

平成24年度から平成29年度までは文科省の委託事業として学校防災アドバイザーを含め、これまで8年間で小学校・中学校・支援学校・高等学校等へ延べ56校に対し防災士が富山県教育委員会より学校安全アドバイザーとして委嘱を受け、延べ93名の防災士を各学校へ派遣してきました。

令和元年度は小学校3校・中学校3校のモデル校6校にアドバイザー6名、サブアドバイザー6名が以下の内容で助言し、その活動について担当したアドバイザー(防災士)より報告がありました。

◆助言内容

1. 危機管理マニュアルの点検と見直し
2. 避難通路の安全点検並びに登下校中の危険箇所を把握
3. より実践的な避難訓練の進め方
4. ハザードマップの理解と被害想定について話し合う
5. 平時から地域との関係づくりが必要
6. 近隣の小学校等や地域住民と連携した体制整備の検討の必要性



◆今後のモデル校の課題

1. 普段から町内会長や自主防災組織と連携し、学校での防災への取り組みを理解してもらい、災害時にも円滑に学校運営が出来るよう協力してもらう必要がある
2. 災害の起こるメカニズムを教師や子供たちが教科と結び付けて学ぶことが大切
3. 学校内の防災担当教員のレベルアップを図るための研修会に対する支援
4. 重要な施設が1階に集中し、水害時に支障をきたす心配がある
5. 災害時の対応については、近隣の小学校、幼稚園、保育所や地域住民と連携した体制を整備することが必要
6. 学校は教職員の定期的移動により防災担当が代わることを前提に、防災への備えが避難訓練等の積み重ねによって確実に向上する仕組みづくりが必要
7. 地元との定期的な交流を通して訓練内容の見直しや改善が必要、マニュアルの改廃が明記され引き継ぎに行かされること

第2部 意見交換会

防災教育、今後の課題や学校安全アドバイザー制度に対する要望

1. 専門的な判断や対応が被害の最小化に繋がれることを信じて県や市町村の教育委員会と共にした活動
2. 生徒・教職員に防災関係機関が発行する資料（リーフレット等）配布
3. 児童への直接の指導の機会
4. 同じような立地環境の学校間の取組の共有や、交流を促すことも大切
5. 児童生徒が学校以外で災害に遭遇した場合、自分で自分の命を守る行動ができるようになるための防災教育の目標設定
6. 学校周辺の防災士が果たす役割
7. 学校安全アドバイザー制度の継続



県、市町村そして地域住民や自主防災組織との緊密な連携が子供たちの命を守ることに大変重要であるという意見が多かった。

また、富山県が進める国土強靱化地域計画にも学校安全アドバイザーの内容が盛り込まれており、参加者からは富山県防災士会の使命が着実に広がっていることを実感できた等のコメントもありました。

短い時間ではありましたが、多くの意見が交わされ大変有意義な報告会となりました。

第3部 台風19号に伴う被災地(長野市)災害救援活動報告会



NPO法人富山県防災士会が策定している「災害時の活動指針」及び北信越連絡協議会「災害時の活動指針」に基づき、令和元年東日本台風と命名されたこの度の台風19号による大規模洪水で被災した長野市への災害救援活動を実施しました。

第1回救援活動を10名の参加を得て10月24日には長野市穂保地区、第2回救援活動では9名の参加を得て10月27日に赤沼地区のリンゴ農家宅の泥掻き出し作業を致しました。

また、11月に入り会員から再度災害救援活動の要望が多数寄せられ、11月23日、18名の参加を得て第3回救援活動を穂保地区で実施致しました。泥水に浸



かったリンゴの摘果作業、摘果の終わったリンゴの集積作業を行いました。個人で救援活動された防災士もあり、延べ42名の防災士が救援活動を致しました。

今回の救援活動実施に当たり、10月20日に被災地へ視察に(小杉理事長)入り、ボランティアで入る場合の手続き、注意事項、保険の加入、高速道路使用の特典など情報収集して頂きました。団体(8名以上)でボランティアに入る場合インターネットで事前に申し込みが出来、当日はサテライトセンターへ直行し受付、作業場所の地図、作業内容を聞き待つことなく速やかに活動場所

に行くことができました。

参加者は一様に参加してよかった。自分たちが行ってきた活動は被災地では微々たるものであったかもしれないが役に立てて良かった。また機会があれば長野入りしたいとの声が多く聞こえました。日程が合わず参加できなかった会員からは再度企画してほしいとの要望があります。

